

無垢フローリング 施工上の注意 (施工前に必ずお読みください)

※天然無垢製品のため、大気中や床下からの湿度の影響により、本来持っている湿気の吸排作用によって伸縮する性質を持っています。
保管、施工およびメンテナンスにつきましては、下記注意事項をよくお読みください。
なお、これらを守っていただけない場合、製品の補修・交換などには応じかねます。

★免責事項…加工後の返品や交換には応じかねます。

1. 施工前に確認

- 針葉樹は開梱後に長時間放置されますと、施工現場の環境により、反り、曲がり、表面割れ等が発生するおそれがありますので、その点に留意ください。
- 換気口は十分に設置してください。(建築基準法施行令:外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300㎖以上の換気口設置)
床下の換気が十分でない場合、施工後に反り、突き上げ、床鳴り等が発生するおそれがあります。
- 雨風が吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工してください。

2. 下地施工

床下と下地合板が湿気を含んでいないことを、まず確認してください。



[根太あり]

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の十分に乾燥した材を使用し、プレーナーで平ら、かつ滑らかに仕上げてください。
- 大引き間隔は、1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出した上で施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用します。
また、隣り合う捨て貼り合板の間は、2~3mmあけた状態で施工してください。
- 床下の湿気が多い場合には、根太と捨て貼り合板の間には、必ず0.1mm厚以上の防湿シートを敷き込んで施工してください(防湿処理)。

[根太なし]

- 大引きは105mm角以上の乾燥した材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は、1000mmまたは3尺(910mm)、レベル(水平)を出した上で施工してください。
- 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
- 床下の湿気が多い場合には、大引きと合板の間に、0.1mm厚以上の防湿シートを敷き込んで施工してください(防湿処理)。

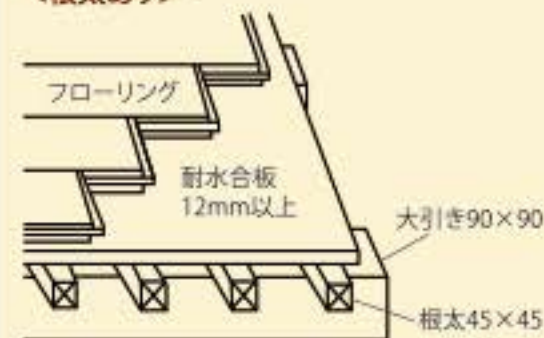
POINT!

防湿処理

フローリングが膨らむのを防ぐため、含水率10%以下になるまで床下のコンクリートは乾燥させます。また、耐水合板の下に、防湿シートは必ず敷き込むようにしてください。下地合板が湿気を含んでいないことも確認を忘れずに。



<根太あり>



<根太なし>



3. 貼り込み

[広葉樹フローリング]

- フロア用ステープルと接着剤を併用し、施工を行ってください。
使用する接着剤は、F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系のものをお選びください。水溶性接着剤は床鳴りの原因となります。
- サネやその近くの部分には、接着剤のご使用をお控えください。
- サネを強く叩き込みすぎた場合、反りや突き上げが起こる場合があります。ジョイント部には、必ず隙間を取るようにしてください。
また、壁際では5~10mmの隙間が必要となります。

■敷居・ドア枠・框などの部分

<隙間の確保>



<コーキング処理>



注) はき出し窓サッシへの納め、又敷居納めの場合は、必ず隙間を空け、コーキング処理をしてください。

[針葉樹フローリング]

- サネは強く叩き込みすぎないようにしてください。膨張時の反りを防ぐため、1mm弱の隙間を設けてください。
- 接着剤は、広葉樹フローリング同様、F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系のものをご使用ください。

■接着剤の塗り方

- ①接着剤は適量を守りましょう。
- ②接着面のホコリ、汚れはしっかり取り除いてください。
- ③サネに接着剤がつかないように注意。
幅方向に固定されたフローリングが一体になり、大きな隙間が生じることがあります。

■接着剤をつける部分

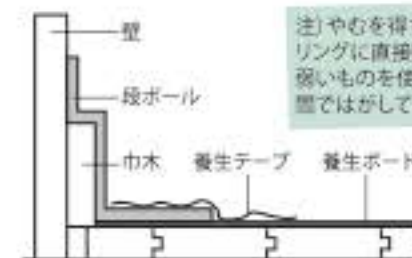


■サネの真下ではなく、やや内側に接着剤を塗布します。



4. 養生

- 貼ったフローリングに傷がつかないように、養生シートや養生ボードを用いて全面を覆ってください。
この時、養生テープをフローリングに直接貼らないようにしてください。
塗装がはがれたり、接着剤が付着することで、汚れや変色の原因となる場合があります。



注) やむを得ず養生テープをフローリングに直接貼る場合は、粘着力の弱いものを使用して、なるべく短時間ではがしてください。

日常のメンテナンス方法

■基本のメンテナンス

- ①掃除機での掃除と乾いた雑巾での乾拭き。普段のお手入れは上記2つだけで大丈夫です。
- ②水は、割れやシミなど様々なトラブルの原因に!こぼしてしまった時は、すぐに拭き取りましょう。
- ③しつこい汚れは固く絞った雑巾で拭き取った後、乾拭きで仕上げてください。



[水・飲み物などの液体への対応について]

- 乾いた布で速やかに拭いてください。そのままにしておくと、膨張・白濁・表面塗装割れなどが生じることがあります。
- 拭いた後はそのまま自然に乾燥させてください。膨れなどが生じた場合も、乾燥機(ドライヤー等)は使わないでください。
- フローリングに冷えた缶などを直接置くと、丸く白濁しますので、ご注意ください。
- 水が頻繁にかかる浴室、洗面まわり、キッチンなどの場所は、マットを敷いて水濡れにご注意ください。
濡れたマットはそのまま放置しないようにお願いします。

■ワックスの塗布について

定期的にワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
ワックスの掛け方は、フローリングの塗装の状態によって異なりますので、ご確認の上、ワックスを塗布してください。

[弊社のラッペンワックス使用のフローリング(自然塗装)のお手入れについて]

- フローリングは水気に弱いため、乾いたモップ、または乾いた雑巾で乾拭きをしてください。
- 乾拭きをしても落ちない汚れは、雑巾を濡らして固く絞った状態で拭いた後、乾いた布で乾拭きをしてください。
※自然の植物油からつくられた無公害塗料で、浸透性があり、木の呼吸を妨げません。
この特徴を活かすためにも、ラッペンワックスに含まれていない化学成分を上塗りすることはおすすめできません。
市販のワックス類のご使用はお控えください。別売のメンテナンス用ラッペンワックスのご使用をおすすめいたします。

使用上の注意

雨漏り・水濡れ

無垢フローリングは水を嫌います。長時間の水濡れは製品のシミ、汚れの原因となりますので、速やかに乾いた布で拭き取ってください。特に無塗装品やオイル塗装品は、水濡れにより変色しやすいので、注意してください。また、キッチンや洗面所など、水をよく使用する場所には、水切りマットを敷いてください。

熱

ホットカーペット、温風ヒーター、ストーブなどの熱が直接当たるような使い方は、目障りや表面割れを引き起こすことがありますので、避けてください。これらを使用する場合は、断熱性の高いマットを敷いて、ご使用ください。断熱マットは家電販売店でお求めください。

キャスター・重量物

机やテーブル、イスの脚には、布(フェルト)キャップやゴムキャップなどをかぶせてご使用ください。ピアノなどの重量物は、敷き板を介して置いてください。荷重のかかった状態でキャスター付きのイスやワゴンを動かすと、大きなダメージを受けやすくなります。カーペットを部分敷きして、表面を保護した上でご使用ください。

色違い・やけ

天然木のため、色柄は一枚一枚異なります。製品カタログなど印刷物の写真とは微妙に異なる場合もありますので、ご了承ください。また、木材は紫外線等の影響で変色していきます。無垢材の特徴としてご理解ください。